

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 4月 23日

【評価実施概要】

事業所番号	0792900011		
法人名	医療法人 久慈会		
事業所名	グループホーム 志宝台		
所在地	〒963-6123 福島県東白川郡棚倉町大字関口字一本松164-3 (電話) 0247-57-9101		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成21年3月23日	評価確定日	平成21年5月7日

【情報提供票より】(平成21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤	10人, 非常勤 0人, 常勤換算 9.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円	その他の経費(月額)	2,000円	
敷金	○ 有(60,000円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円
	夕食	300円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	62歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東白川中央病院 藤田歯科医院		
---------	----------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は水田が広がる住宅地にあり閑静な場所である。幹線道路からも近く、公園、大型スーパー、公共事業所なども近くにあり日常的に散歩や買い物などに出かけ地域生活を楽しんでいる。事業所敷地は広く、畑で年間を通じた野菜づくりや花壇で季節の草花を植え利用者、職員が一緒になり作業を行っている。共用空間、居室とも広く、ゆとりある造りになっている。開設2年目の事業所であるが利用者、職員は落ち着き、ゆったりしたなごやかな生活を楽しんでいる。管理者は職員の資質向上に努めており、資格取得にチャレンジしている職員も多く向上意識の高さも窺える。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	開設後1年目であったために前回評価で取り組みを期待された、地域とのつきあい、運営推進会議の設置、防災訓練などを実施し、少しずつ改善している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の重要性を認識し、職員全員で自己評価を行い、それを管理者を中心に検討したり、前回の評価結果を全員で点検しサービス改善に取り組んでいる。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議が設置され、役場高齢福祉係長、地域自治会の区長、家族代表などを委員とし事業所運営状況(避難訓練、事故・ヒヤリハット、アンケート集計結果、内部評価・外部評価結果、外部資源(リハビリ器具)の活用、要望事項など)を報告したり検討している。現在年4回の開催であり、2ヶ月に1度の定期的な開催には至っていない。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に満足度調査を行い、事業所の満足度、要望、意見などを把握し運営に反映させている。また、ご意見箱の設置や家族面会時に利用者の健康、生活状況を報告して苦情、不安などの解消に努めている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会に加入し行政の広報紙の配布を受けたり、地域新聞に事業所運営状況を掲載されたり、日常の買い物、散歩での地域住民との交流、地域ボランティアの受け入れなどがあり、連携が見られるようになっている。今後は、地域活動への参加について検討されることを望む。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で住み慣れた地域の中で地域資源を活かし可能な限り自立した生活ができるよう支援することを事業所独自の理念とし、取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は毎日確認するため業務日誌に添付したり、会議で取り組み、日々の勤務の中で具体的実践として取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会に加入し、日常の買い物、散歩時の交流や、カラオケ、踊りなどのボランティアを受けいれている。事業所から地域活動への参加は見られない。		今後、町の文化祭や老人会、花火、盆踊り大会、地域清掃などの行事への参加など地域活動への参加について検討されればなお望ましい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行うとともに全職員で検討し、前回の外部評価結果を踏まえ、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を設置し運営状況などの報告や運営課題の検討などもされているが、開催が年4回であり、会議記録も十分になさていない。	○	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催すると共に委員への前回の会議内容の報告、会議結果の家族への報告、地域住民への広報などを検討して欲しい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付時に利用者の生活状況、健康状況報告するとともに、家族は費用納入の際毎月面会を兼ね来訪していただき、その時状況を詳しく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケート調査を行い、満足度、意見、要望などを把握し運営に活かしている。また、運営推進会議で出された家族の意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職にならないよう、管理者は職員の良き相談者になっている。やむを得ない異動がでた場合は、経験豊かな職員とのペア勤務を行い利用者のダメージをなくすようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は資格取得を推奨し、資格取得後は待遇に反映させている。また、全職員に各種研修会に積極的に参加させ、その結果は会議で全職員に報告するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム連絡協議会に加入し、その研修会にできる限り職員を多く参加させたり、近隣の同業者と交流し情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活経験の中で身につけた得意なことを把握し、園芸、野菜作り、調理、編み物などを職員と一緒にやり、利用者と共に支え合う関係を築き支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で買い物、散歩など利用者の意向、希望を確認し、尊重した支援を行っている。家族の思いや利用者の情報把握のため、面会時に家族から情報を得、センター方式を部分的に活用し利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式の書式を取り入れ情報把握するとともにケアプランに沿った支援内容を毎日記録し、職員全員でモニタリングやカンファレンスを行い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的介護計画見直しを行うとともに、状況変化時には利用者、家族、関係機関とともに、全職員で検討し、速やかに見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する掛かり付け医師への通院は、職員が付き添っている。受診時の状況は家族へ随時報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	要介護度が比較的軽い利用者が多く、重度化への対応や終末期の看取りについての指針はまだ作成されていない。かかりつけ医、家族と相談して、対処するようにしているが、今後の課題と捉えている。	○	重度化への対応や終末期の看取りについて関係機関とも協議し、事業所としての指針を作成するとともに、職員研修、家族への周知が必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を損なうことのないよう誇りやプライバシーに配慮した支援を行っており、個人情報に関する同意書を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ希望することはできる限り沿うようにしている。買い物、散歩、外出など希望を踏まえ支援している。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の献立作成にも利用者の希望を活かし、食材の買い物、調理、後片付けにも一緒に行い、誕生会や季節行事の献立に嗜好や希望を取り入れており楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴可能であり、だいたい午後の好きな時間に入浴している。最低でも週2回は入浴していただくよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者が希望する畑仕事や編み物、手芸などできること、やりたいことを把握し、支援すると共に日常生活の中で日めくり、新聞をとるなどそれぞれの役割や場面づくりを行い、生活力を活かすよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	花見、バラ園見学、紅葉狩り、初詣など季節行事としての外出の他、日常的に利用者の体調に合わせて日々の散歩、買い物など行っており、希望があれば、通院の帰りにドライブを楽しめるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、昼間は玄関に施錠せず、朝などは開け放しており、外に出る利用者にはさりげなく見守っている。夜間も外への門は施錠していない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は2回、消防署員の立会、指導を受け避難、通報、消火訓練を行った。昨年度の評価で指摘された、飲料水は備蓄しているが非常食はまだ備蓄されていない。	○	夜間時は職員が一人だけであり、その時の対応を消防署の指導を受け訓練するとともに緊急通報装置の設置、地域住民の応援、非常食の備蓄が必要である。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は利用者の希望も取り入れ職員が作成し水分、食事摂取量は毎食チェックし、一人ひとりの状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、自然光も取り入れ、全体的に明るく、広い造りである。玄関や共用の場所には季節の花を活け、おひな様も飾るなど生活感、季節感を取り入れている。畳みコーナーにはこたつも置かれ、利用者はそれぞれの場所でくつろぎ、おしゃべりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながらテレビやラジオ、ベットなど使い慣れたものを持ち込んだり、居室に写真、作品などの飾り居心地良く過ごせるようにしている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 志宝台

記入担当者名 金澤 敏子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。